

6月議会 一般質問

市民の声と福祉の心を届けました

子ども、障がい者に 医療の拡充を

難病患者手当は元に戻すこと

鴻巣市は、難病患者手当を今年1月から5000円から10000円に削ってしまいました。患者の方々からは、他の病気の医療費にお金がかかり大変という声がたくさん寄せられています。元にもどすことを求めて質問しました。

市は、難病患者の方々の現状は真摯に受け止めるかと答えつつも、元にもどす考えはないとしました。

子ども・ひとり親家庭の 入院食事代補助を行うこと

これまで、子ども・ひとり親家庭の医療費は全額無料でした。しかし、今年4月から、入院食事を自己負担させています。昨年度は、これらに係る費用は約250万円でした。ひとり親、特に母子家庭は経済的にも大変です。子育てを支援するというなら元にもどすことを求めて質問しました。



竹田えつ子議員

誰もが安心して 介護サービスに



すわみつえ議員

第6期介護保険改定により保険料の見直しがされました。低所得者にはわずかな減額があつたものの大半が増額となつています。すでに高齢者の負担能力を超えています。また、利用料の負担が重くサービスを控える高齢者が多いため市独自の減免制度を求めました。

市の地域支援事業に移行します。サービスの質が落とされることなく、また利用料の増額とならないよう質問しました。市は「専門的なサービスを必要とする人には現行のサービス提供事業者が提供を行なえるようにしていきます」と答えました。

選挙管理委員長への質問

投票率向上と高齢化社会に 対応した投票所に

18歳選挙権行使に向けた投票率の向上、年を重ねても安心して投票できるよう投票所の改善などについて、竹田えつ子議員が質問をしました。

選挙管理委員長は、選挙は民主主義の根幹をなすものであり、自らの意思を政治に反映させることが大事であり、関係機関と連携しながら投票率向上につとめていくこと。高齢者でも書きやすい2Bの鉛筆をふやしたり、車椅子でも気兼ねなく投票できるように改善したいと答えました。



重度心身障がい者 医療費補助を

埼玉県に合わせ、鴻巣市も4月から、新たに65歳になって、重度心身障がい者になった方の医療費助成をなくしてしまいました。市独自に助成することを求め質問しました。

市は、重度心身障がい者医療費助成制度は、これまで県の2分の1補助があつて実施していたが、県からの補助がなくなったため、市独自の補助をする考えはないと答えました。

「消費税は福祉の為」 はゴマカシ

そもそも消費税は、福祉の為に使うとして増税しました。鴻巣市に、地方消費税交付金として、今年度、15億8700万円、昨年より約5億円増額されています。にも関わらず、福祉の支えが必要な難病患者、重度心身障がい者などの福祉予算を削つたり、子ども・ひとり親家庭の入院食事代の負担を増やすなど、市の姿勢が問われます。

日本共産党は、引き続き「福祉の心」を届けていきます

市は、消費税は、福祉の為に使うとして増税しました。鴻巣市に、地方消費税交付金として、今年度、15億8700万円、昨年より約5億円増額されています。にも関わらず、福祉の支えが必要な難病患者、重度心身障がい者などの福祉予算を削つたり、子ども・ひとり親家庭の入院食事代の負担を増やすなど、市の姿勢が問われます。

国保税の引下げと 医療費窓口負担の軽減を

課税所得の1割以上も払う国保税の引き下げと、低所得者の医療費窓口負担の軽減を行う事を求めて質問しました。

市は、医療費の増加分を賄う為に、国保税の引き下げは考えていないと答えました。また医療費窓口負担の軽減は、入院した場合、生活保護基準以下で、預貯金が生活保護基準の3ヶ月以下であれば免除制度があると説明しましたが、鴻巣では、適用された例がありません。引き続き求めていきます。

生活道路の改良を

松原3・4丁目の市道B10号線の道路改修の見通しと、馬室の七曲りといわれているB376号線と接続するB360号線について質問しました。

市の答弁は、B10号線は、2018年以降に着工の見通しであること、B376号線・B360号線は、今年度、道路等整備箇所検討委員会で評価していくとしました

これからも、みなさんの声を届けていきます。